



# からしだね

2014年  
8-9月号 (497号)

キリストの受難  
カトリック池田教会

共同宣教司牧：畠 基幸神父・松本 一宏神父

協力司祭：デニス・マックゴワン神父

住所：〒563-0041 池田市満寿美町9-26

TEL：072-751-2400 FAX：072-753-4624

URL(ホームページ)：

[http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic\\_ikeda/](http://www.wombat.zaq.ne.jp/catholic_ikeda/)



巻頭言 .....	2	信徒総会 .....	3
池長大司教様公式訪問 .....	3	研修委員会から .....	4
広報委員会から .....	4	節電しましょう .....	5
からしだね俳壇 .....	6	宝塚黙想の家から .....	7
平和旬間祈念行事 .....	7	ガラスケースの言葉 .....	7

表紙写真：モンテネグロのコトルにある聖トリフォン大聖堂 撮影：延原 泰子

※ 聖堂入り口で配布しているものからの抜粋版です  
完全版をご希望の方は、お近くの広報委員までお問い合わせください

巻頭言

## アフリカの熱い復活信仰に触れて

畠 基幸神父

7月初め、機会があってウガンダ共和国に旅立ちました。赤道直下燃えるような灼熱の太陽、野生動物たちとの出会い、そして素朴な人々の信仰の営みをイメージしながら機上の人になりました。夜中に発って、翌日の午後2時にはウガンダの国際空港エンテベに到着。時差が6時間あるので、お得な感じ。ちょうど大会の講師やエチオピアの司教様と空港で合流したためか、大統領が差し向けたパトカー先導でVIPの特別車の後を私が乗ったタクシーも便乗し、猛スピードで走る。途中いろいろな車が負けまいと便乗してきて、何台も連なって走る。幹線道路のような高速道路はなく、ただ舗装された平坦な道が街の中を通り、サイレンの音に何かと街の人や村の人が頭をあげてこちらを眺める様子が見える。接触追突のニアミスもあり、冷や冷や、やっとの思いで、世界最大の湖ビクトリア湖畔にあるホテルに到着。海拔1000メートル以上ある高地の避暑地で夜風は寒いくらい。広大な敷地にホテルの宿泊棟が続く。古のアフリカの懐かしいイメージはどこにもなく、しゃれた西洋のリゾート地にいるようでした。それからホテルの受付で部屋を案内され、身支度して大会会場の受付に行くと、続々と各国の団体がバスで運ばれてきて登録の長蛇の列が出来ていました。登録が終わると、湖畔沿いの広場に立てられた大きなテントに向かう。アフリカ全土から集まった参加者(2500名登録)がすでに会場を埋め尽くして、すでに開会式が終わっていました。この会合は、ウガンダ司教協議会とICCRS(国際カトリッククリスマス刷新奉仕会)の共同主催によるもので、「国際カトリック聖霊による刷新大家族の集い、全アフリカ大会」と銘打った会議で、6月30日から7月5日まで行われました。二人の枢機卿、教皇大使、地元の大司教、司教たちをはじめ、アフリカ以外からも世界中のリーダーを招いて開催された国際色豊かな大会でした。地元の司教団、司祭団、シスターたちが多数参加し、ウガンダを世界にアピールする気概を感じました。同じ日程で同じホテルで、諸宗教の諮問会議(EU主催)も開かれていて、そんな国際舞台で活躍する委員たちとも朝食時に席を同じくして交流できたことは、予想外のことでした。ウガンダは、数度の軍事クーデターや200万人の難民を生んだ「神の抵抗軍」反政府組織の存在で治安は大丈夫だろうかと思いましたが、行ってみれば、1986年以来長期安定政権で、貧困撲滅行動計画を実施し、治安も経済も安定し、気候風土に恵まれ、教育にも熱心で若い世代であふれている。ただ借金をしてまで大学を目指しても、それに見合う雇用がなく、勉学の意欲を失う若者や、頭脳の国外流出があるとのことでした。

大会翌日には、想定外で、ムセベニ大統領が来て1時間ほど講演することになり、セキュリティチェックの長蛇の列ができ、カメラと携帯は取り上げられました。カトリック48%、聖公会36%、プロテスタント10%と国民の94%がキリスト者なのに、エイズ患者が16%あり、どうしてなのかと問いかけ、信仰者が惰眠しているからだと言われました。大統領は、自分もキリスト者で政治にかかわる前は、ウガンダの聖書協会会長だったと紹介し、神を愛し隣人を愛しさえすれば、この地上は天国になるのに、そうならないのは、いまだに善きサマリア人のたとえを実践しないからだと言われました。大統領は自説を展開されました。信仰者がその信仰に目覚めれば、国は安定し栄えると、信者に信仰の炎をもたらす聖霊刷新の働きに期待していると励まし、最初に聖霊刷新の炎を伝えたアイルランド人シスター・ダガンに功労賞を贈りました。この大会には、ガーナ出身の若い枢機卿、教皇庁正義と平和の評議会会長を務めるピータ・タークソン名義大司教も臨席され、午後からの司祭団への講話、ミサ、大会の基調講演など聖書に基づく信仰の刷新の旅を、自身の体験を踏まえながら、わかりやすい言葉で会衆を魅了されました。聖トマスの祝日の説教では、復活節が終わり、年間の主日の暦の中に、再び復活の主日の出来事が取り上げられ、苦しみ傷ついた主の体と同じ主の体が、復活した天の父の右の坐に上げられている意味を、私たちの復活、人間の運命の方向が、チリに戻るのではなく、主の栄光の体に結ばれる運命へと転換されたことにあると宣言されたとき、会場全体が立ち上がって歓呼の叫びで湧



きあがりました。アフリカ人の陽気で明るい雰囲気会場に満ちていました。

アフリカの土産は、何ととってもミサの体験です。紙面では語りつくせない臨場感をカメラのビデオモードで録画しました。それでもその臨場感を味わってもらうには現地体験してもらえないと思います。主日のミサは、主の復活を喜び祝う日で、その祝祭に毎日曜日に私たちは招かれています。わたしも反省するのですが、その復活の喜びは毎日曜日にはまったく感じられないほど、多忙な雑務に追われて、主を喜び祝う心の余裕がないのが日本の教会の典礼です。アフリカの教会は、絶えず貧困、病気、死の脅威にさらされながら、主の復活の喜びに満ち溢れています。開祭の入堂行列、ことばの典礼の始まりに聖書の入堂行列、奉納行列のパンとブドウ酒につづく作物の奉納行列、そして聖体拝領後の感謝の祈りと踊りの行列と、何度も会衆が喜びと感謝を歌と踊りで表現するのです。ミサは、毎回2時間半を超えるほどですが、まったくその長さが感じられないほど、太古の伝統的な音楽のリズムがこちよく響いて、主への賛美の心を保ち続けることができました。

大会最終日は、ウガンダの教会の初穂、聖カロロ・ルアンガと同志殉教者の列聖50周年も兼ねて、ウガンダの首都カンペラ近隣から集まった会衆3万人ほどと共に列聖記念ミサが行われました。その翌日、ガーナの一行と一緒にジンジャというナイル川の源流の村に行き、船でビクトリア湖の湖畔と湖底から吹き上がる源泉の上を通過して戻ってきました。近くにはファチマの聖母にささげられた教会があり、翌朝、大会全体の恵みと旅の出会いを感謝してミサの中で祈りました。時間があれば、録画を編集してアフリカ典礼の醍醐味を紹介できればと思います。平和への熱い思いをささげながら、主の復活の喜びを味わいたいと思います。

暑い毎日がつづきます。よい夏の休みをお過ごしください。 アレルヤ感謝のうちに！



### 信徒総会が行われました (6月15日)



### 池長 潤大司教様 公式訪問・対話集会 (6月29日)



## 研修委員会からのお知らせ

北摂地区中高生交流会があります

テーマ 『野外活動と学び』

日 時： 2014年9月23日 10:15 ～ 15:30

場 所： 日生中央教会

申込み： 9月14日までに、研修委員 青池、磯野まで



## 広報委員会から

- ① からしだねの編集やホームページの更新をお願い出来る方を募集しております。特にパソコンを使った作業に興味のある方は、お知らせください。
- ② からしだね7月号に不備がありましたので、訂正してお詫びいたします。  
3 ページ目 評議会議事録 典礼委員会報告  
誤) 待者  
正) 侍者
- ③ 8月のからしだね編集はお休みです。  
夏休み中の行事の記事をお待ちしています。締め切りは、9月21日です。
- ④ 6/1の國井神父・6/29の池長大司教様のお説教は、ホームページに掲載されています。  
またCDもありますので、広報委員にお声をかけてください。CDにはお説教以外に、対話集会のお話も含んでいます。

## 節電しましょう！

今年も猛暑になっていますが、電力の需給状況はかなり厳しいものになっているようです。また、教会の電気代は4月～6月の累計で14パーセントもの増加になっています。昨年からの値上げ、今年4月からの消費税の値上がりである程度は致し方ないとおもいますが、そうも言ってもらえませんので、この夏の節電を考えたいと思います。

目標は8～10月の電気代（おおむね7～9月利用分）を昨年並みに抑えることです。

つまり3パーセント弱の節電ということです。

そのために以下のことをお願いしたいと思います。

①冷房の温度は28度にする。（冷やし過ぎは体にもよくありません。）

②冷房の風量は自動にする。（一見、弱風などの方がよさそうに思えますが、気温が高いとき設定温度まで冷やすのに、弱風では余計にエネルギーがかかるそうです。）

③つけた冷房は責任をもって消す。（先に帰る場合は、後の方に一言お声掛けください。）

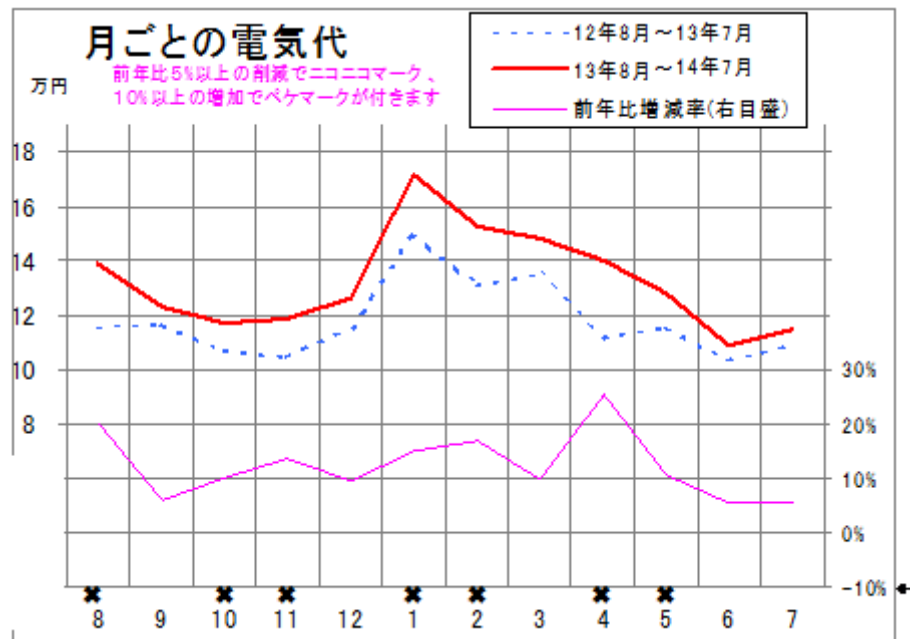
これ以外にも、何か工夫できる案があれば、ぜひ財務の鋤納のレターケースにアイデアをお寄せください！たとえば、受付当番の方のために、アイスを冷蔵庫に置いておく、なんていう斬新な？アイデアもお願いします。（8月の受付当番はお休みです、念のため）

もちろん、皆様の教会での活動に水をさしたいわけではありません。ご体調にも十分ご注意ください。エアコンを我慢して熱中症になったなんてことになれば本末転倒です。

その上で、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

結果は11月号のからしだねに掲載したいと思います。

(財務委員会)







からしだね佛壇

松本善一

一巻のザイル被はれ山開く  
豆腐屋の声つつめけの夏座敷

大西秀子

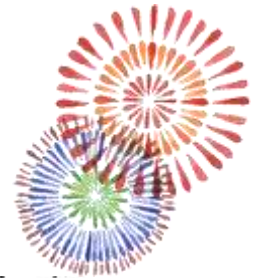
愚痴話子ぬ友ありかき氷  
水打て庭の夕風動き出す

原田寛子

あじさいの白を好むは鈴とも  
羊夏生鳩の目少し赤くなり

赤井ひろ子

梅雨晴れのカネアルグレイ洋装す  
寝がえりの音カサカサと寝こぼしかな



森山真美子

カフリンなびんぎの列招く夏  
早苗田のモチーフかえり風交えて

亀甲泰子

梅雨晴間光集めるイヤリングが  
大夕立上がりし後の原野かな

馬場とよ

はたは神の正体破壊の向うかな  
原色に溢れる町や夏祭り

仲和子

青蒿のこよなき(青々)チヤペルの音  
西宅工は燃えているなり打水す

岩尾純枝

病室に折鶴あふれ露深を  
病院を出れば燃えぬる夾竹桃



## 宝塚黙想の家から 黙想会のお知らせ

私たち、キリスト者に与えられている宝は、神のみことばである聖書です。  
黙想の家では、毎月みことばを深く味わう集いを行っています。  
宝は大事にしたいですね。

### ■ 日帰り黙想会

※ 8月はお休みです。

9月18日(木) 10:00～15:30 指導：染野治雄神父

9月19日(金) 10:00～15:30 指導：染野治雄神父

### ■ 一泊黙想会

※ 8月はお休みです。

9月20日(土) 17:00 ～ 9月21日(日)15:30 指導：山内十束神父

※ 各黙想会、費用等のお問い合わせは「宝塚黙想の家」まで TEL. 0797-84-3111



## 《平和旬間祈念行事》のお知らせ

日時 8月10日(日) ミサ後開始

場所 カトリック池田教会 聖堂

講師 飯塚 重俊先生 (伊丹教会所属)

略歴：高校・短大の教師を50年間務め、専攻は哲学と音楽評論。

特に音楽論文には力を入れられており、受賞歴有り。

聖母被昇天学園に於いて14年間教頭を務められた。

題目 《特攻隊 少年兵》

※ 飯塚先生は戦時を生き抜かれた方です。生きたお話を拝聴出来る事は、私達世代そして若い世代にとっても大変貴重な事であり、なるべく多くの方々に参加頂き、戦争なき平和な世界への思いを各々心に落として頂ければ幸いです。

講演所要時間は約40分～1時間程度です。

(社会活動委員会)



## 8-9月のガラスケースの言葉

平和を実現する人々は、幸いである、  
その人たちは神の子と呼ばれる。

マタイによる福音書 5章9節

### 編集後記

黒い船を造ったオトモダチから「みさご」という名の高価な鳥が、何羽も飛来している。海に囲まれた巣と生息圏を守る為とやら。何も、有名な魔法の国の話ではない。

ああ…。まるで、蛇が獲物を、身動きをとれなくするがごとく、本当に気づいた暁には…。時遅しになりませんように。

世界の各地がきな臭い今、地に足をつけ“平和旬間”を過ごしたい。(天使の微笑)